

区内野鳥生息状況

野鳥生息調査結果

(1) 目的

江東区環境基本計画に基づき、野鳥の生息調査を実施することにより、江東区内の野鳥生息状況を定期的に把握し、野生生物保護と生態系保全の基礎資料としています。

(2) 調査期間

平成21年6月から平成22年2月まで。

(3) 調査地域(平成21年度)

野鳥生息調査地域と調査地域の特性

- 1 都立亀戸中央公園 [旧中川沿いの都市公園]
- 2 都立猿江恩賜公園 [横十間川沿いの都市公園]
- 3 仙台堀・横十間川親水公園 [江東内河川沿いの親水公園]
- 4 荒川(新木場)周辺 [大きな河川とその河川敷の水辺公園]
- 5 豊洲運河(越中島)周辺 [大きな河川とその河川敷の水辺公園]

(4) 調査方法

定点センサス法またはロードセンサス法により観察される水鳥の種類と出現数を記録しました。なお、本調査ではカイツブリ科、ウ科、サギ科、ガンカモ科、クイナ科、チドリ科、シギ科及びカモメ科の8科に属する野鳥を水鳥としました。

(5) 調査結果



かわせみ



亀戸中央公園隣旧中川 キンクロハジロ

【1】 概要

出現した水鳥の種類は22種でのべ3,353羽でした。科別では、出現したのは7科であり、カイツブリ科2種13羽(出現率0.4% 以下同じ)、ウ科1種336羽(10.0%)、サギ科4種71羽(2.1%)、ガンカモ科9種2,697羽(80.4%)、クイナ科1種35羽(1.0%)、シギ科2種17羽(0.5%)及びカモメ科3種184羽(5.5%)でした。ガンカモ科の水鳥が出現種類及び出現数ともに最大となり、本区の冬季の水鳥を代表することがわかりました。

出現した水鳥の上位5種類は、キンクロハジロ1,024羽(30.5%)、スズガモ455羽(13.6%)、オナガガモ399羽(11.9%)、カワウ336羽(10.0%)、ヒドリガモ290羽(8.6%)の順であり、これら上位5種類で出現総数の74.6%に達しました。

シギやチドリも水鳥の代表ですが、出現数はシギ科2種17羽のみであり、少ないことがわかりました。



猿江恩賜公園 カルガモ

【2】 月別調査結果

ア. 6月の調査結果

出現種類4種で15羽であり、この時季は水鳥が少なく、カモ類では、カルガモが仙台堀・横十間川親水公園などで6羽出現し、繁殖していることが確認されました。カルガモ以外のカモ類は出現しませんでした。アオサギは仙台堀川・横十間川親水公園で6羽出現しましたが、このうち4羽は幼鳥でした。猿江、新木場、豊洲運河の3地域では水鳥は1羽も出現しませんでした。

イ. 9月の調査結果

出現種類9種で431羽であり、6月と比べて出現数が大きく増加しました。カモ類ではカルガモが64羽出現しました。9月は秋のシギ・チドリの渡りの時季であり、チュウシャクシギ5羽が新木場で出現しました。カモメ類ではウミネコが新木場、豊洲、亀戸で90羽が出現しましたが、越冬地への渡りの途中と考えられます。カワウは6月には1羽のみでしたが、豊洲など3地域で計245羽出現しました。



仙台堀川公園・横十間川親水公園 アオサギ

ウ. 12月の調査結果

出現種類 17 種で 1,188 羽であり、9 月と比べて種類数、出現数ともにさらに増加しました。これはカモ類などの水鳥が越冬のために区内の水辺に飛来したことによります。とくにカモ類は9月がカルガモ 1 種のみ 64 羽であったのに対して、12 月は 8 種類 1,072 羽に激増しました。出現数の上位3種は、スズガモが 358 羽でカモ類に占める割合が 33%、キンクロハジロが 321 羽で 30%、オナガガモが 131 羽で 12%でした。カモメ類では、越冬するユリカモメが 35 羽出現しました。サギ類は 4 種出現し、アオサギがもっとも多く 6 羽でした。本区では少ないダイサギが仙台堀川で 1 羽出現しました。冬になると本区の水辺は野鳥でにぎやかとなります。



新木場緑道公園 ハクセキレイも見られます。



亀戸中央公園隣旧中川 オナガガモ

エ. 1月の調査結果

出現種類 19 種 582 羽であり、12 月と比べて半減しました。カモ類 は 8 種類、出現数は 496 羽であり、そのうちオナガガモが 108 羽で最も多く、ついでヒドリガモ 105 羽、キンクロハジロ 87 羽の順で出現 しました。カモメ類では、セグロカモメとユリカモメが計 15 羽出現し

ました。カイツブリ類では荒川河口部の新木場でハジロカイツブリ 3 羽、カンムリカイツブリ 5 羽が出現しました。

オ. 2月の調査結果

出現種類 17 種 1,137 羽であり、12 月について出現数が多くなりました。カモ類は 8 種、出現数 1,059 羽でした。豊洲でキンクロハジロが 616 羽出現しました。なお、豊洲では護岸工事が行われていたので、今後の水鳥の出現数に影響する可能性があります。カモメ類では、ユリカモメとセグロカモメが計 42 羽出現しました。また、カイツブリ類のハジロカイツブリとカンムリカイツブリが 1 月に続いて計 3 羽出現しました。



新木場緑道公園(荒川) カンムリカイツブリ

【3】 地域別調査結果

ア. 亀戸中央公園

年間で 12 種、のべ 83 羽が出現しました。出現数が昨年の 9 種 514 羽に比べて大きく減少しました。これは昨年 418 羽出現したユリカモメが今年度は 10 羽しか出現しなかったからです。ここの特徴は公園東側を流れる旧中川の河川敷の整備により親水機能が向上した



仙台堀川・横十間川親水公園 キンクロハジロ

結果、12 月から 2 月までの冬季にカモ類やユリカモメが集まることです。出現したカモ類は 6 種です。おとしまではオナガガモが多く見られましたが、今年度はもっとも多い 2 月でも 34 羽でした。他の地域ではふつうに見られるカルガモはここでは 1 羽のみ出現しました。1 月にコガモが 1 羽出現しました。ユリカモメは冬季に毎回数羽が出現しました。例年出現するシギ類のイソシギは 2 月のみ 1 羽出現しました。

イ. 猿江恩賜公園

年間で 5 種、のべ 293 羽が出現して、昨年度とほぼ同じ結果でした。公園内に 3 ヶ所の池があり、また東側に横十間川があるため冬季にカモ類などが集まります。12 月から 2 月にかけて 50 羽ほどのオナガガモ、9 ~ 39 羽のキンクロハジロ、20 羽ほどのカルガモが出現しました。ここでは例年出現するコガモ、ユリカモメは出現しませんでした。なお、12 月にカワセミが 1 羽出現しました。ここで越冬している個体と考えられます。

ウ. 仙台堀川・横十間川親水公園

年間で11種、のべ457羽が出現して、出現数が昨年度より少し増加しました。冬季に公園中央の「野鳥の島」周辺や、その西側の仙台堀川にカモ類が多く出現します。もっとも多いのはカルガモで、毎回5～37羽出現しました。初夏にはここで繁殖しています。その他オナガガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、マガモが出現しました。横十間川と仙台堀川の交差点にある「野鳥の島」ではゴイサギ、アオサギ、コサギが出現しました。「野鳥の島」ではアオサギが繁殖しました。また、12月にはユリカモメが29羽出現しました。

エ. 荒川(新木場)周辺

年間で14種、のべ558羽が出現しました。ここは荒川の河口にあたり、内湾の水鳥が出現するのが特徴です。出現したカモ類は4種類で、スズガモが12月に263羽出現したほか、ヒドリガモ、カルガモ、キンクロハジロが出現しました。

内湾に生息するカイツブリ類であるカンムリカイツブリが12月2羽、1月と2月に1羽、ハジロカイツブリが1月と2月に2羽出現しました。

カモメ類では、ウミネコが9月に81羽、セグロカモメが1月と2月に1羽出現しました。シギ類ではイソシギが3回出現したほか、中型のシギであるチュウシャクシギが9月に5羽出現しました。また、ダイサギが9月に1羽出現しました。

オ. 豊洲運河(豊洲1丁目周辺)

年間で16種、のべ1,918羽が出現し、種類数、出現数ともに6調査地域でもっとも多くなりました。8種類のカモ類のほか、カワウ、サギ類、オオバン、カモメ類が出現しました。

カモ類ではキンクロハジロが2月に565羽、12月に244羽出現したほか、ヒドリガモが12月に126羽、ホシハジロが2月に106羽、スズガモが12月に95羽、そのほかマガモ、カルガモ、オカヨシガモ、マガモが1月、2月に4羽、オナガガモが1月に64羽出現しました。カルガモは冬季には出現しませんでした。

カモ類以外ではオオバンが冬季に3回出現し、12月と2月には14羽が出現しました。シギ類はイソシギのみ3回出現しました。カモメ類ではウミネコが9月に6羽、セグロカモメが12月、1月、2月に2～17羽、ユリカモメが2月に23羽出現しました。

コアシサシは出現しませんでした。コアシサシは夏鳥として渡来し、日本で繁殖するアジサシ類ですが、近年生息数が激減していて絶滅危惧種に指定されている貴重な水鳥です。

カワウは6月を除いて出現し、最大数は9月に153羽でした。サギ類ではコサギ、アオサギが出現しました。



水鳥の群れ(新木場緑道公園から浦安方面を見たところ)

新木場緑道公園では、メジロやモズが見られることもあります。



メジロ



モズ

【4】 8年間の経年変化

平成 14 年度からの水鳥の経年変化をみると、水鳥は毎年減少していましたが、21 年度は増加しました。14 年度には出現数がのべ 6,116 羽であったのが、20 年度にはのべ 3,048 羽まで半減しましたが、21 年度は 3,353 羽と 300 羽ほど増加しました。この増加傾向が今後続くかが注目されます。

ア. カイツブリ類

毎年 2~3 種、8~34 羽が出現しました。全水鳥に対する出現率は 0.2~1.0% でした。カンムリカイツブリが毎年度出現するのが特徴です。

イ. ウ類

カワウのみ出現しました。出現数はのべ 314～593 羽でした。出現率は 5.5～10.5%でした。15 年度からは出現数が 300 羽台で、ほぼ一定しています。

ウ. サギ類

毎年 4～5 種、のべ 48～93 羽が出現しました。ダイサギがまれに出現しました。出現率は 0.8～2.8%でした。

エ. カモ類

毎年 9～10 種、のべ 2,054～3,623 羽が出現しました。出現率が水鳥のうちカモ類がもっとも高く、58.5～80.4%を占めました。水鳥の半数以上がカモ類だったわけです。ここ数年はキンクロハジロ、オナガガモ、スズガモの比率が高くなっています。カルガモは 18 年度までは出現数が 400 羽台で安定していましたが、19 年度からは 200 羽前後に減少しました。

オ. シギ・チドリ類

これまで 7 種、のべ 1～98 羽が出現しましたが 18 年度からは 1～2 種のみ出現し、種類、出現数ともに減少しています。出現率は 0.0～1.7%でした。本区は長い海岸線に恵まれながらも、シギ・チドリが好む干潟の部分が極めて少ないことがシギ・チドリ類の少ない原因の 1 つと考えられます。

カ. カモメ類

カモメ類は 3 種、それとアジサシ類のコアジサシ 1 種が出現しました。カモメ類の出現数は 15 年度の 1,876 羽をピークにその後減少して、21 年度は 184 羽でした。

夏季に日本で繁殖するコアジサシは、近年生息数が大きく減少している希少種ですが、0～16 羽のみ出現しました。21 年度は出現しませんでした。

キ. オオバン

これまでのべ 2～35 羽が出現しましたが、21 年度がもっとも多く出現しました。